

自殺対策シンポ:「まずサイン見つけよう」 - - 諫早 / 長崎

国内で年間3万人を超える自殺者を防ぐため、地域のつながりの再構築を模索する「自殺対策講演会・メンタルヘルス研修会」が3日、諫早市の長崎ウエスレヤン大であった。約100人の医療、教育関係者や一般市民らが詰めかけ、識者や専門家の語りに耳を傾けた。

県の主催。地域や職場での「自殺対策の知識や対処方法」の習得のために開催した。「相談支援者に求められるものは」と題したシンポジウムがあり、長崎大学医学部・歯学部附属病院の山本智一・精神神経科外来医長が「まず、死にたいというサインを見つけよう。一時入院で薬物療法などを続ければ回復はできる」と話した。

また、大村市の自死遺族会「Re:」の山口和浩代表は「私も遺族の一人。独りで悩まないことが大切で、遺族同士で分かち合うことが大切」と語り、NPO法人自殺対策支援センター「ライフリンク」(東京)の清水康之代表は「人間の回復力はすごい。新しいつながりが新しい解決策を生む」と地域のつながりの大切さを指摘した。

最後は質疑応答があり、市民からは「夜間の精神科の充実が必要」「楽しい生きがいの創出が増えるといい」との意見が出た。【柳瀬成一郎】

[毎日新聞] 20070204